

GRADE guidelines 15. Going from evidence to recommendation-determinants of a recommendation's direction and strength

Jeffrey C. Andrews, Holger J. Schunemann, Andrew D. Oxman, Kevin Pottie, Joerg J. Meerpohl, Pablo Alonso Coello, David Rind, Victor M. Montori, Juan Pablo Brito, Susan Norris, Mahmoud Elbarbary, Piet Post, Mona Nasser, Vijay Shukla, Roman Jaeschke, Jan Brozek, Ben Djulbegovic, Gordon Guyatt

【日本語訳】**GRADE ガイドライン 15: エビデンスを推奨に変換する – 推奨の方向性と強さの決定因子**

抄録

GRADE アプローチでは、推奨の強さは管理戦略における一連の望ましい効果が望ましくない効果を上回ることに對する確信性の程度を反映する。本稿では推奨の方向性と強さを決定するための GRADE アプローチについて取り上げる。GRADE では、懸案の望ましいアウトカムと望ましくないアウトカムに関する効果推定値、効果推定値の確信性、価値観と好みに関する推定値、資源利用からなる4つの領域に基づき、複数の管理戦略における懸案の望ましいアウトカムと望ましくないアウトカムのバランスについて記述する。最終的には、ガイドラインパネルは、介入に賛同または反対する強いまたは弱い推奨を策定するためにこれらの因子を統合して判断しなければならない。